尾張版

中日新聞

平成28年
9月30日(金)

古知野高生が新商品

2種共同開発 文化祭で販売

江南市の古知野高校の生徒たちが、棒付きの三色ういろう「いろいろ棒いろ」と、唇を保湿するリップバーム「Pure Kiss」を県内の業者らと共同開発し、二十九日、同校の文化祭で販売した。いろいろ棒いろは三十分で二百五十個を完売した。

商業科と情報処理科が企業などと連携して商品を開発する授業の一環で、三年生二十人が取り組んだ。

ういろうは同市の和菓子店「尾張ういろ」と連携。女子の制服をイメージし、桜味のピンク色でリボンを、プレーンでシャツの白色を、黒ごまを混ぜてスカートの灰色を表した。食べやすいよう棒付きにした。一本百二十円。

開発したPure Kissといろいろ棒いろを紹介、販売する生徒たち＝江南市の古知野高で

商業科の舟橋弥香さん(一七)は「高校生になじみのない和菓子に興味を持ってもらえるよう工夫した。食感はもちもちです」と笑顔でアピールしていた。

リップバームは、同校初の食品以外の商品。女子生徒の間で流行中だったことから、半田市に開発センターを持つ化粧品会社「相生発酵」と協力して製造。ワセリンやシア脂のほか、江南特産のイチジク果実エキスを入れ、ノバラ油で香りを付けた。五百四十円。

いずれも十月二十三日に大口町の名鉄自動車専門学校である催しでも販売する。問古知野高校＝〇五八七(56)二五〇八

(鈴木あや)

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

中日新聞
尾張版
平成２８年１０月１３日（木）

生徒目線 市長に提案

古知野高 タウンミーティング

江南市の古知野高校の生徒たちが、市の魅力や改善してほしい点を沢田和延市長と語り合うタウンミーティングが十二日、同校であった。

市の魅力を発信する情報誌を作る同校の観光ビジネスコースの二年生十八人が参加。沢田市長を含め、輪になって意見を交わした。

生徒は「カラスがごみ捨て場を荒らしている。通気性のいい箱を設置しては」「街灯が少なく、不審者が出るので怖い」などと、日ごろ感じている不満を次々と発言。「音楽の流れる花火大会や藤を市外にもっとアピールしては」と提案した。

さまざまな声を聞いた沢田市長は「皆さんも広告塔になって」などと答えていた。

瀬戸杏奈さん(一七)は「いつもは思いをどこに言えばいいか分からない。他の高校でも開いて高校生目線の要望も聞いてくれれば、市がもっと良くなるのでは」と話していた。

タウンミーティングは、沢田市長が市民の声を直接聞く機会を設けようと一月から開いており、三回目。高校では初めて開いた。

（鈴木あや）

市の魅力や改善点を語り合う沢田市長（左から2人目）と生徒たち＝江南市の古知野高で

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。